

ITU-T SG15 会合 (9/28-10/9) WP1 提出寄書

資料 2-伝-2-SG15-WP1-Q1-寄概-NTT (1)	G.hntreq へのホーム網遠隔管理要求条件に関する提案
資料 2-伝-2-SG15-WP1-Q2-寄概-NTT (1)	G.omci の構成案の提案
資料 2-伝-2-SG15-WP1-Q2-寄概-NTT (2)	新勧告 G.987.1 ドラフトに対するアップデート提案
資料 2-伝-2-SG15-WP1-Q4-寄概-NEC (1)	G.hn:Fcs の上限値変更の提案
資料 2-伝-2-SG15-WP1-Q4-寄概-NTT (1)	G.vector:G.vector Appendix への日本環境に最適化された漏話チャンネルモデルの提案
資料 2-伝-2-SG15-WP1-Q4-寄概-NTT (2)	G.hn: G.9960 承認に関する提案
資料 2-伝-2-SG15-WP1-Q4-寄概-パナソニック (1)	ラストコールコメントに対する分析とコメント
資料 2-伝-2-SG15-WP1-Q4-寄概-パナソニック (2)	G.9960 送信機が電力線上で動作する場合に G.cx 機能を必須のものとする要求
資料 2-伝-2-SG15-WP1-Q4-寄概-パナソニック (3)	ITU-T G.9960 (G.hn)と ISO/IEC 12139-1 との共存機能を必須のものとする要求
資料 2-伝-2-SG15-WP1-Q4-寄概-パナソニック (4)	G.cx 対応に必要な G.hn Management Message の提案
資料 2-伝-2-SG15-WP1-Q4-寄概-パナソニック (5)	G.cx コンセントに関する提案

資料 2-伝-2-SG15-WP1-Q1-寄概-NTT (1)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式 4)

ITU-T 会合への提出寄書概要
(会合名: ITU-T SG15 第2回会合)

提出元: 日本電信電話

寄 書 名	原 題	Proposal of home network remote management requirements on G.hntreq		
	和 訳	G.hntreqへのホーム網遠隔管理要求条件に関する提案		
開催期間		2009年 9月28日～ 2009年 10月 9日	開催地	スイス、ジュネーブ
課題番号	課題名	アクセス網標準化の調整		
Q.1				
<p>提出寄書の意図・目的: <input type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>ホーム網要求条件勧告であるG.hntreqに対して、ホーム網に遠隔管理サービスを提供する上で伝達網に求められる要求条件を記述することを提案する。</p>				
<p>寄書の内容:</p> <p>5月に開催されたQ.1中間会合にG.hntreqの勧告草案を提示し幾つかのコメントを受けてG.hntreq草案の修正を行っており、来年6月のコンセントに向けて今会合で完成度をより高めた草案を提示する予定である。他方TTCではホーム網における具体的なサービス規定として遠隔管理サービスの標準化を企図しており、ITU-Tでの勧告化も並行して行うことを希望している。</p> <p>NTTはG.hntreqの勧告化日程がTTCでの検討日程と重なることから最短での勧告化が可能と判断し、TTCの了解の下に上記サービスの伝達網要求条件部分のみを切り出して勧告化することを提案する。なお本件をNTT単独寄書としたのは、TTCでの検討結果のITU-Tへの迅速な入力のためには複数社での稟議を待つ時間的余裕はなく今回は提案のみなので事後了解でも十分、というTTCでの判断に基づく。</p> <p>今回の寄書は、遠隔管理機能として configuration management、fault management、performance managementの3つの管理機能実現のための伝達網における要求条件を記述すると共に、BBF TR-069等を通して上位層に管理情報を通知することを提案している。具体的な記述内容は、本勧告のエディタ(NTT-AT 吉田、三菱電機 横谷)を通して今後盛り込んでいく。</p>				
<p>勧告に対する外国の状況:</p> <p>今のところ積極的に賛成あるいは反対を表明している国はない。</p>				
<p>他のSG、他の機関との関連:</p> <p>CATV技術との役割分担ではSG9が、QoS管理の観点ではSG12が、アプリケーションへの適用ではSG16が関連する。外部機関ではBBF標準との整合性を強く意識しており、Gateway機能ではHGIと、Ethernet技術ではIEEEとの関連が強い。</p>				

(注) 寄書原文を提出すること。

資料 2 - 伝 - 2 - S G 1 5 - W P 1 - Q 2 - 寄 概 - N T T (1)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式 4)

I T U - T 会 合 へ の 提 出 寄 書 概 要

(会合名 : I T U - T S G 1 5 第 2 回 会 合)

提出元 : NTT、沖電気、NEC、住友電工、日立、三菱電機

寄 書 名	原 題	Proposal of architecture of G.omci		
	和 訳	G.omciの構成案の提案		
開 催 期 間		2009年 9月28日～ 2009年 10月 9日	開 催 地	スイス、ジュネーブ
課 題 番 号	課 題 名	アクセス網における光システム		
Q.2				
<p>提出寄書の意図・目的 : <input type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>5月に開催されたQ.2中間会合で、ITU-Tの10GクラスPONであるXG-PON用OMCIを他の10GクラスPONにも適用できるよう汎用化を図るべき、との提案を行った。中間会合では、汎用OMCIの概念は歓迎されたが対象とするPONとしてG-PONを加えることが求められ、さらに電話会議ではXG-PON用OMCIとは独立した汎用OMCI規定としてG.omciを作成することが合意された。</p> <p>本寄書は、G.omciの審議を加速すると共にPoint to Point方式を加えた任意の光アクセスシステムに適用できるようにOMCIの汎用化を一層促進するため、その第一歩としてOMCI規定を共通部分と個別部分に分割することを提案した上で、共通部分用管理エンティティの一覧を提案する。</p>				
<p>寄書の内容 :</p> <p>本寄書で提案する汎用OMCIの適用対象がG-PON、XG-PON、1G-MC及び将来システムであることを明示した上で、共通部分規定を勧告本文に個別部分規定をAnnexに記すことで、拡張が容易な汎用OMCIが作成できることを示す。次いで共通部分と個別部分との定義を述べて、共通部分については具体的な管理エンティティの提案を行う。</p>				
<p>勧告に対する外国の状況 :</p> <p>G.omciの作成は総論としては各国とも賛成しているが、各論になると10G-EPONの扱いを巡り国ごとに意見が異なる可能性がある。日本としては、対象とする将来システムとして10G-EPONを想定してOMCIの汎用化を進めるが、各国の意向に留意しながら更なる提案の時期を見定める。</p>				
<p>他のSG、他の機関との関連 :</p> <p>XG-PON用OMCIの検討はFSANで進められている。またG-PON用OMCIの互換性検証試験もFASNやETSI等が協調しながら検討している。これらの成果はQ.2/15で勧告あるいはインプリメンターズガイドとして標準化される。</p>				

(注) 寄書原文を提出すること。

資料 2 - 伝 - 2 - SG 15 - WP 1 - Q 2 - 寄概 - NTT (2)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式4)

ITU-T会合への提出寄書概要

(会合名:ITU-T SG15 第2回会合)

提出元:NTT

(注)原案作成元と提出元が異なる場合は、原案作成元を括弧書きで併せて記載すること。

寄書名	原題	Proposed updates for the draft new Recommendation G.987.1		
	和訳	新勧告G.987.1ドラフトに対するアップデート提案		
開催期間		2009年 9月28日～2009年 10月 9日	開催地	ジュネーブ(スイス)
課題番号	課題名	Optical systems for access networks		
Q.2				
<p>提出寄書の意図・目的: <input type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>次世代10ギガ級光アクセスネットワークを実現する"10Gigabit-capable passive optical network (XG-PON)"をITU-T G.987シリーズとして標準化する作業が進んでいる。本寄書では、G.987.1として作成中の「XG-PONの一般的要求条件」の内容を充実させることを目的としている。</p>				
<p>寄書の内容:</p> <p>具体的には、従来のPONからXG-PONへのマイグレーションシナリオ、サービス要件・インタフェース要件、光ファイバ区間損失要件、省電力化要件、光安全要件、などについて、記述の詳細化、明確化を図る提案を行う。</p>				
<p>勧告に対する外国の状況:</p> <p>内容はFSAN(フォーラム)において事前に検討されたものであり、FT、AT&T、その他主要メンバの賛同を得ている。</p>				
<p>他のSG、他の機関との関連:</p> <p>IEEE 802.3においても100Mbpsおよび1Gbpsのポイントツーポイント光アクセス仕様が規定されているが、本寄書で提起する問題はキャリアの重要課題であるため、ITU-T勧告(G.985)の修正を最初に行うべきと考える。</p>				

(注)寄書原文を提出すること。

資料 2-伝-2-SG15-WP1-Q4-寄概-NEC (1)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式4)

ITU-T 会合への提出寄書概要

(会合名: ITU-T SG15 第2回会合)

提出元: 日本電気株式会社

(NEC マグナスコミュニケーションズ株式会社)

(注) 原案作成元と提出元が異なる場合は、原案作成元を括弧書きで併せて記載すること。

寄書名	原題	G.hn: Proposal to modify the upper limit of Fcs		
	和訳	G. hn : Fcs の上限値変更の提案		
開催期間		2009年9月28日~2009年10月9日	開催地	スイス・ジュネーブ
課題番号	課題名	メタルケーブルを使用した、アクセス系と宅内系ネットワークシステムのためのトランシーバ		
Q4				
<p>提出寄書の意図・目的: <input type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>本寄書は従来から行っている、宅内同軸ケーブルを使用する際に、ケーブルテレビサービス、放送サービスと共存しつつ、使用周波数帯域を200MHzに拡大することで性能向上を実現するための一連の提案(問題提起と勧告草案提案)の一環として、前回G. hnラポータ会合(米国・コンコルド)で提出した、“同軸ケーブル上で2070MHz以上の帯域を使用するRF伝送場合のPSD(電力周波数密度)マスクの提案”(09CC-026)で発覚した本文との不整合を解消し、9月コンセントを目指している、G. 9960 Amendment 1の本文の一部修正(同軸RF中心周波数の上限拡大)を提案し審議の促進を図るものである。</p>				
<p>寄書の内容: 現在作成中のG. 9960 Amendment 1のAnnex C(日本Annex)に記載されているPSDマスクと同勧告案の本文に記載されている使用周波数の中心周波数の許容範囲との不整合点を解消するために、上記、許容範囲の上限拡大を提案する。</p>				
<p>勧告に対する外国の状況: 欧米各国から参加している。</p>				
<p>他のSG、他の機関との関連: 特になし。</p>				

(注) 寄書原文を提出すること。

資料 2-伝-2-SG15-WP1-Q4-寄概-NTT (1)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式 4)

ITU-T 会合への提出寄書概要
(会合名: ITU-T SG15 第2回会合)

提出元: NTT、NEC、住友電工、OKI

寄書名	原題	G.vector: Proposed Working Text for the crosstalk channel model optimized for Japanese environment in G.vector Appendix.		
	和訳	G.vector: G.vector Appendixへの日本環境に最適化された漏話チャネルモデルの提案		
開催期間		2009年9月28日～2009年10月9日	開催地	スイス・ジュネーブ
課題番号	課題名	Transceivers for customer access and in-premises networking systems on metallic conductors		
Q4				
<p>提出寄書の意図・目的: <input type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input checked="" type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>新規勧告草案 G.vector は、今会合でのコンセンストを目指して審議が進められてきている。草案の中、ATIS 提案の漏話チャネルモデルがグローバルなモデルとして Appendix に記載されているが、少なくとも日本における線路モデルとは異なるものであることを踏まえ、Appendix への新規追加項目として日本向けの線路モデルを前提とした漏話チャネルモデルの提案を行うものである。なお、本寄書は、TTC DSL 仕様検討 SWG での合意を踏まえ、NEC、住友電工、OKI と連名提出するものである。</p>				
<p>寄書の内容:</p> <p>提案内容は次の通りである。</p> <p>日本における典型的な線路モデルを示し、このモデルを前提とした遠端漏話減衰量の考え方を明らかにする。その上で、遠端漏話チャネルをモデル化するために必要とされる遠端漏話電圧伝達関数を明らかにしている。なお、Appendixへ適用すべきWorking Textの形での提案となっている。</p>				
<p>勧告に対する外国の状況:</p> <p>遠端漏話チャネルモデルに関してはATISからの提案のみであり、ETSIからの提案はない。ただし、欧州ではAlcatel-LucentがATIS提案モデルの採用に言及した経緯あり。</p>				
<p>他のSG、他の機関との関連:</p> <p>ATIS: MIMOモデルの提案</p>				

(注) 寄書原文を提出すること。

資料 2-伝-2-SG15-WP1-Q4-寄概-NTT (2)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式 4)

ITU-T 会合への提出寄書概要
(会合名: ITU-T SG15 第2回会合)

提出元: 日本電信電話(株)

寄 書 名	原 題	G.hn: Proposal for Approval of G.9960		
	和 訳	G.hn: G.9960承認に関する提案		
開催期間		2009年9月28日～2009年10月9日	開催地	スイス・ジュネーブ
課題番号	課題名	Transceivers for customer access and in-premises networking systems on metallic conductors		
Q4				
<p>提出寄書の意図・目的: <input type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>2008年12月にコンセントされたG.9960に対するLCコメント解決に向けた審議が続けられた結果、8月中間会合の結果としてLCコメントを踏まえたG.9960改版テキストがSG15に提案された。この改版テキストに対して、AAPプロセスでの今回SG15会合での承認を提案するものである。</p>				
<p>寄書の内容:</p> <p>提案内容は次の通りである。</p> <p>LCコメントには、(1)FEC方式を、コンセントした内容から変更すること、(2)既存技術であるHomePlugとの相互接続を可能にすること、に関するコメントが含まれている。これらのLCコメントに関する対応として、</p> <p>1)AAPでのコメント解決過程の中、より品質の高い内容になり、承認に値するレベルになっている。</p> <p>2)解決していないLCコメントについて、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FEC方式に関しては、G.9960勧告化検討の中、十分な方式検討・性能検討結果を踏まえた上で合意、決定したものである。 ・相互接続性の確保については、本PJの合意事項(他の技術との相互接続はスコープ外)を踏まえる必要があり、また、技術移行期に起こりうる干渉問題に対してはG.cxで規定する共存仕様を実装することで回避可能である。 <p>3)承認を急ぐことについては、昨年のコンセントに対する市場の反応が大きかったように、市場への要求にタイムリーに応えることが望まれる。</p> <p>以上を踏まえ、今会合でのG.9960の承認を提案する。</p>				
<p>勧告に対する外国の状況:</p> <p>FTが上述したLCコメントを提出しているため、フランスとして承認反対の動きに出る可能性あり。現時点、その他の国からの反対はないものと思われる。</p>				
<p>他のSG、他の機関との関連:</p> <p>FTと連携する形で、PLCの業界団体であるHomePlugアライアンスが、上述するLCコメントを提出。</p>				

資料 2-伝-2-SG15-WP1-Q4-寄概-パナソニック (1)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式 4)

ITU-T 会合への提出寄書概要
(会合名: ITU-T SG15 第2回会合)

提出元: パナソニック株式会社
(原案作成元) (注)

(注) 原案作成元と提出元が異なる場合は、原案作成元を括弧書きで併せて記載すること。

寄書名	原題	"Analysis and Comments of Last Call Comments"		
	和訳	"ラストコールコメントに対する分析とコメント"		
開催期間		2009年 9月28日 ~ 2009年10月 9日	開催地	スイス国ジュネーブ市
課題番号	課題名	Transceivers for customer access and in-premises networking systems on metallic conductors		
4				
<p>提出寄書の意図・目的: <input type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>2008年12月にコンセントされたG.9960勧告のLCCに対する、分析とコメントを記述したものであり、コメント解決と勧告化を推進することを目的とする。</p>				
<p>寄書の内容:</p> <p>G.9960コンセント、LCCの解決に取り組んできたが、解決されていないものがある。それらのコメントに対し、技術的見地(性能、共存、コンプレキシティなど)を中心とした分析とコメントを記載する。</p>				
<p>勧告に対する外国の状況:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・別方式PLC推進企業が既存方式との接続性を主張し、LCC解決が進まない懸念あり。 				
<p>他のSG、他の機関との関連:</p>				

(注) 寄書原文を提出すること。

資料2-伝-2-SG15-WP1-Q4-寄概-パナソニック(2)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式4)

ITU-T会合への提出寄書概要

(会合名: ITU-T SG15 第2回会合)

提出元: 川崎マイカ、NEC、NTT、シャープ、パナソニック
(原案作成元) パナソニック

(注) 原案作成元と提出元が異なる場合は、原案作成元を括弧書きで併せて記載すること。

寄書名	原題	"Request to mandate G.cx feature in G.9960 (G.hn) operating over the powerline medium"		
	和訳	" G.9960送信機が電力線上で動作する場合にG.cx機能を必須のものとする要求"		
開催期間		2009年 9月28日 ~ 2009年10月 9日	開催地	スイス国ジュネーブ市
課題番号	課題名	Transceivers for customer access and in-premises networking systems on metallic conductors		
4				
<p>提出寄書の意図・目的: <input type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>現在標準化策定作業中のG.9960(G.hn)送信機が電力線上で動作する場合に、異種PLC共存方式(G.cx)機能を必須とすることを要求するものである。</p> <p>目的: 勧告作成における基本方針に関するもの: G.hnの電力線上動作時におけるG.cx機能の必須化 〔本寄書の原案は本年5月 SG15WP1会合に日本寄書として提出済み。その際に技術的検討項目であるのでSG15/WP1/Q4に再提出することが求められ(WP1会合報告書(TSB) § 3. 6に記載)、また最近の会合の結果を鑑みても本寄書により必須化を再度要求することが望ましいと考える〕</p> <p>(勧告化予定: G.cxは2009年9月/10月のSG15会合でのコンセントを目指し検討が続けられている。)</p>				
<p>寄書の内容:</p> <p>・ G.hn審議と共に異種PLC共存方式(G.cx)が2008年7月以来検討されてきた。以降、G.cxは、Working Textの更新およびBaseline Textへの昇格がおこなわれているが、G.hn動作時に必須の機能とすることについての合意に至っていない。また、本年8月の会議においても個別方式についてインオペを要求する提案に対する議論があったが、G.cx方式を必須とすることにより、ユーザおよび市場の混乱を低減することを目指す。</p>				
<p>勧告に対する外国の状況:</p> <p>・ 一部既存PLC方式採用企業が共存ではなく接続性を主張し、共存方式に対して反対する懸念あり。</p>				

他のSG、他の機関との関連：

・ IEEE P1901にてITU-T SG15/Q4とPLCに関するリエゾンのもと G.hnとコンパチブルなPHY/MAC仕様を含む「アクセス」「宅内」「共存方式」の検討がおこなわれている。

（注） 寄書原文を提出すること。

資料2-伝-2-SG15-WP1-Q4-寄概-パナソニック(3)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式4)

ITU-T会合への提出寄書概要
(会合名: ITU-T SG15 第2回会合)

提出元: パナソニック株式会社
(原案作成元) (注)

(注) 原案作成元と提出元が異なる場合は、原案作成元を括弧書きで併せて記載すること。

寄書名	原題	"Request to mandate coexistence feature between ITU-T G.9960 and ISO/IEC 12139-1."		
	和訳	"ITU-T G.9960 (G.hn)とISO/IEC 12139-1との共存機能を必須のものとする要求"		
開催期間		2009年 9月28日 ~ 2009年10月 9日	開催地	スイス国ジュネーブ市
課題番号	課題名	Transceivers for customer access and in-premises networking systems on metallic conductors		
4				
<p>提出寄書の意図・目的: <input checked="" type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>現在標準化策定作業中のG.9960(G.hn)送信機が電力線上で動作する場合に、今年7月に発行されたISO/IEC 12139-1との共存機能を必須とすることを要求するものである。</p> <p>目的: 勧告作成における基本方針に関するもの: G.hnの電力線上動作時におけるG.cx機能の必須化</p>				
<p>寄書の内容:</p> <p>ISO/IEC 12139-1, "High speed PLC Medium Access Control (MAC) and Physical Layer (PHY)"が今年7月に発行された。本寄書はG.9960(G.hn)、G.αとISO/IEC 12139-1との関係ならびに共存方法について記述している。ISO/IEC 12139-1の使用帯域は2.15~23.15 MHzであり、G.9960と完全にオーバーラップするため、2つの国際標準仕様を同じ電力線上で使用すると相互に干渉し、機能障害に陥る。ISO/IEC Standard Management Board (SMB) は、下記の決定をJTC1/SC6に対して要請した。</p> <p><u>SMB Decision 135/18 – Power-line communications</u></p> <ul style="list-style-type: none"> - ISO/IEC JTC1/SC6 to initiate maintenance work rapidly to solve any coexistence problems with the G.hn series of ITU-T recommendations and any other relevant standards from the IEC or elsewhere. <p>具体的には、ISO/IEC JTC1/SC6が異種PLC共存方式(G.cx)機能を必須とすることであるが、そのために、現在ITU-T SG15/Q4で進めているG.cx仕様に変更を加える必要はない。ただし、大前提となるG.9960(G.hn)の電力線上動作時におけるG.cx機能の必須化は未だ合意に至っていない。必須とすることにより、ITU-T G.9960 (G.hn)とISO/IEC 12139-1との共存性確保・市場の混乱回避をめざす。</p>				
<p>勧告に対する外国の状況:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部既存PLC方式採用企業が共存ではなく接続性を主張し、共存方式に対して反対する懸念あり。 				

他のSG、他の機関との関連：

- ・ ISO/IEC 12139-1発行(2009.07)。G.hnのPLCと使用周波数が重複するため、相互干渉の懸念あり。
- ・ SMBが、ITU-T G.cxで共存問題を解決するよう改定作業を始めることをJTC1/SC6に指示。
- ・ IEEE P1901にてITU-T SG15/Q4とPLCに関するリエゾンのもと G.hnとコンパチブルなPHY/MAC仕様を含む「アクセス」「宅内」「共存方式」の検討がおこなわれている。

(注) 寄書原文を提出すること。

資料 2-伝-2-SG15-WP1-Q4-寄概-パナソニック (4)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式 4)

ITU-T 会合への提出寄書概要
(会合名: ITU-T SG15 第2回会合)

提出元: パナソニック株式会社
(原案作成元) (注)

(注) 原案作成元と提出元が異なる場合は、原案作成元を括弧書きで併せて記載すること。

寄書名	原題	" Proposal to specify G.hn Management Messages for G.cx "		
	和訳	" G.cx対応に必要なG.hn Management Messageの提案 "		
開催期間		2009年 9月28日 ~ 2009年10月 9日	開催地	スイス国ジュネーブ市
課題番号	課題名	Transceivers for customer access and in-premises networking systems on metallic conductors		
4				
<p>提出寄書の意図・目的: <input type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>今会合でコンセンタが予定されているG.hnでは、Domain MasterがNodeを制御するための Management Messageについて記載されている。G.hnがG.cxを必須対応するには、それに必要な Management Messageの追加が必要であるため、これらの更新を行う寄書を提出する。</p>				
<p>寄書の内容:</p> <p>G.hnがG.cxを必須対応するために、PLC機器間で、Network状態、再同期要求/命令、使用可能リソース、などの情報をやりとりするメッセージを追加する。</p>				
<p>勧告に対する外国の状況:</p> <ul style="list-style-type: none"> 一部既存PLC方式採用企業が共存ではなく接続性を主張し、共存方式に対して反対する懸念あり。 				
<p>他のSG、他の機関との関連:</p> <ul style="list-style-type: none"> ISO/IEC 12139-1発行(2009.07)。G.hnのPLCと使用周波数が重複するため、相互干渉の懸念あり。 SMBが、ITU-T G.cxで共存問題を解決するよう改定作業を始めることをJTC1/SC6に指示。 IEEE P1901にてITU-T SG15/Q4とPLCに関するリエゾンのもと G.hnとコンパチブルなPHY/MAC仕様を含む「アクセス」「宅内」「共存方式」の検討がおこなわれている。 				

(注) 寄書原文を提出すること。

資料2-伝-2-SG15-WP1-Q4-寄概-パナソニック(5)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式4)

ITU-T会合への提出寄書概要
(会合名: ITU-T SG15 第2回会合)

提出元: パナソニック株式会社
(原案作成元) (注)

(注) 原案作成元と提出元が異なる場合は、原案作成元を括弧書きで併せて記載すること。

寄書名	原題	G.cx: Proposal for Consent of G.cx		
	和訳	G.cx: G.cxコンセントに関する提案		
開催期間		2009年 9月28日 ~ 2009年10月 9日	開催地	スイス国ジュネーブ市
課題番号	課題名	Transceivers for customer access and in-premises networking systems on metallic conductors		
4				
<p>提出寄書の意図・目的: <input type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>G α 勧告草案について今回SG15 会合でのコンセントを提案するものである。</p>				
<p>寄書の内容:</p> <p>異種PLC共存方式の必要性がIEEE P1901とともに2008年7月会合で訴求され、これまでG αプロジェクトとして検討されてきた。また、他のSDQによる、この異種PLC共存方式の価値が認識されている。本年8月の中間会合において、大部分についてBaseline Textとなっている。また、G αを参照するG hn-DLLの検討も進み、今会合にてコンセントが予定されている。</p> <p>以上を踏まえ、今回SG15 会合でのコンセントを提案するものである。</p>				
<p>勧告に対する外国の状況:</p> <ul style="list-style-type: none"> 一部既存PLC方式採用企業が共存ではなく接続性を主張し、共存方式に対して反対する懸念あり。 				
<p>他のSG、他の機関との関連:</p> <ul style="list-style-type: none"> ISO/IEC 12139-1発行(2009.07)。G.hnのPLCと使用周波数が重複するため、相互干渉の懸念あり。 SMBが、ITU-T G.cxで共存問題を解決するよう改定作業を始めることをJTC1/SC6に指示。 IEEE P1901にてITU-T SG15/Q4とPLCに関するリエゾンのもと G.hnとコンパチブルなPHY/MAC仕様を含む「アクセス」「宅内」「共存方式」の検討がおこなわれている。 				

(注) 寄書原文を提出すること。